

日本高齢期運動連絡会ニュース

発行責任者 畑中 久明 発行所 日本高齢期運動連絡会
〒164-0011 東京都中野区中央 5-48-5 シャンボール中野 504 号
TEL/fax03-3384-6654 E-Mail nihonkouren@nifty.com
<http://www.nihonkouren.jp>

No.361
発行 2023 年 12 月 12 日



年末座り込み行動 2023年12月11日～13日 厚生労働省前

第37回日本高齢者大会 in 愛知

2024年11月22日(金)午後 分科会、学習講座、移動教室

2024年11月23日(土・祝)午前 全体集会

会場：名古屋国際会議場

日本高齢者大会第36回東京大会 第3回中央実行委員会総会

第37回愛知大会 第1回中央実行委員会総会

2023年12月2日午後1時30分より東京民医連2階会議室で第3回中央実行委員会総会を開催。総会は吉岡尚志代表委員が議長を務め議事を進行しました。畑中久明事務局長が提案し、討議を行い、中央実行委員会の解散を確認しました。続いて、第37回日本高齢者大会 in 愛知、第1回中央実行委員会総会を開き、畑中久明事務局長の議案提案を討議、中央実行委員会を結成しました。

第37回大会中央実行委員長の高橋淳日本医療福祉生協連会長理事と愛知社会保障推進協議会議長があいさつしました。



吉岡議長

高橋淳 第37回日本高齢者大会 in 愛知 中央実行委員長のあいさつ

(田中光顕日本医療福祉生協連常務理事の代読)

2024年 第37回日本高齢者大会 第1回実行委員会のみなさま。ご苦勞様です。今回、実行委員長を務めさせていただきます、日本医療福祉生活協同組合連合会 会長理事の高橋淳です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

さて、2024年で37回を数える日本高齢者大会は、第1回「全国高齢者大会」を京都で、1987年9月に開催してから、全国各地で持ち回り開催してきました。これまでで大会が中止となったのは、2017年第31回沖縄大会です。台風で中止となりました。そして、2020年第34回長野大会は、コロナ禍ということで翌年2021年開催となりました。長野大会は、長野県内の参加者を中心に実開催と、県外参加者はWeb参加という初めてのハイブリッド開催でした。そして、この長野大会でも実行委員長を務めさせていただきました。現在、地球温暖化による気候危機で、集中豪雨等による自然災害が毎年発生しています。また、ロシアのウクライナ侵攻、中東和平問題が深刻さを増していくなか、日本は、この機とばかりに大軍拡、戦争をする国を目指そうとしています。

介護が必要な人が介護サービスを使えるようにとの要求があるなか、介護・看護のために離職した人は年間10万人にのぼっています。

長寿社会を実現したなかで、安心して医療や介護が利用できるようにすることが求められているのに、「マイナ保険証」の義務化で不安をひろげています。政府はマイナ保険証をこり押しするために、「ポイント還元」と称して税金を湯水のように投入しています。ひきつづき、「マイナ保険証廃止法案の撤回を求める」ため行動しましょう。

本日を皮切りに、第37回日本高齢者大会 in 愛知にむけ、中心となるテーマ、スローガン、記念講演等、準備をすすめていきましょう

日本高齢者大会を成功させ、「日本高齢者人権宣言」を普及し、各地域の高齢期運動の活性化をめざして、いつまでも住み続けたいまち、住み続けられるまちをともに作りましょう。

よろしくお願いいたします。

森谷光夫 第37回日本高齢者大会 in 愛知 現地実行委員会のあいさつ

こんにちは。生存権裁判が人権ということを非常に重視した判決が下ったということは非常に重要なことだと思っています。これも当事者だけじゃなくって、労働組合、民主団体、弁護士、ジャーナリストの多くの協力によって出されたと思っています。愛知でも今度、いろんな団体の方が共同代表になっていただいて、高齢者の人権、そして高齢者だけじゃなくて全ての国民の人権をどう守っていくのか。特にマイナカードによって保険証の廃止ということは、高齢者が非常に困難になる。国民皆保険が危機にさらされると思います。



愛知大会はぜひ全国のご指導のもと成功させていきたい。よろしくお願い致します。どうもありがとうございました。

第36回日本高齢者大会 in 東京 第3回中央実行委員会総会

開会あいさつ 杉澤隆宣 中央実行委員会委員長

皆さん大変お疲れでございました。世界情勢が大変な中で開かれた大会として役割を果たしたと感じます。テーマもとても良かったと思います。全国の皆さん本当にご苦労様でした。愛知にバトンタッチされましたけれども、すごいですね42人も誕生に上がりましてね。愛知大会を大いに期待できるなと、思いました。私も皆さんへのお礼の挨拶をさせていただきます。どうもありがとうございました。



東京実行委員会より挨拶 小嶋満彦 東京実行委員会代表委員



皆さんこんにちは。東京実行委員会の代表の小嶋です。お集まりいただきましてありがとうございます。36回大会済みまして、情勢は立ち止まっている余裕がないほどいろんなことが動いていますので、大会で得たいろんな経験教訓も生かしながら、次の運動に繋げていきたいと考えています。大会ご協力ありがとうございました。

議案提案 畑中久明 事務局長

はじめに

第36回日本高齢者大会 in 東京はイスラエルのガザへ攻撃で大変緊迫した情勢のもとで開催。全体会で特別決議『ガザでのジェノサイドは許さない イスラエルは攻撃を中止し 即時停戦せよ』を全員で確認した。第36回東京大会は日本高齢者人権宣言の旗をかがげ、戦争ではなく、平和と人権が守られる社会が日本の進路と力強く示すことができた。東京実行委員会の努力と、全国の仲間のみなさんの協力で無事開催できた。



1、大会概要

(1) 大会日程

2023年11月12日(日)13時～13日(月)13時

<1日目>11月12日(日)大正大学 13 学習講座・14 分科会、3つの夜の企画、3移動分科会

<2日目>11月13日(月)文京シビック大ホール 全体会

(2) 大会スローガン・大会の意義

①スローガン

○大会スローガン まちから村からの連帯で ひとりぼっちの高齢者をなくそう

○サブスローガン ストップ軍拡 かがやけ人権

②大会の意義・目的

○戦争する国へと大転換と、社会保障の解体がすすむもとで、高齢者が若者など多世代と手を結び、憲法の平和的生存権を生かす社会への運動の連帯を大きく広げる

○日本高齢者人権宣言決定後、初めて、そして国連世界人権宣言75周年キャンペーン(12月10日まで)期間中の大会。日本高齢者人権宣言を学び、たたかいに活かす

○全国で地域に高齢期運動を広げ根付かせること目指す

(3) 大会参加者数等 総計 3,000 人 (京都 3,398 長野 3,570 福島 3,554)

①全体会 1,700 人 学習講座・分科会・移動分科会・夜の交流会 1,360 人 (内オンライン参加数 延べ 523 人) ②講師・助言者 54 人、講座・分科会除要員等 1 日目 56 人、2 日目 64 人 ③物産展(1 日目)4 件 ④全体会会場カンパ 572,544 円 協賛募金 中央 465,000 円 東京 435,000 円 ⑤メッセージ 中央 34 件 東京 件 ⑥感想文 413 (1 日目 350 2 日目 63)

参加者のなかった都府県：長崎・栃木* (京都大会) 北海道・岩手・栃木・佐賀・長崎

2、東京大会の特徴について

①「ストップ軍拡 かがやけ人権」のスローガンと大会の3つの意義に沿った充実した内容になった。柳澤協二さんの記念講演は軍備ではなく外交、対話の力に確信がもてる内容で大変好評。

②日本高齢者人権宣言を採択後、初めての大会にふさわしく、人権を軸にして平和、暮らし、まちづくり、生きがいなど、充実した内容。分科会には自治会長、認知症家族の会、学生、労組青年部など多彩な人が参加、活発に討議された。学生・若者との交流の場ができた。住宅・就労・補聴器・マイナンバーなど高齢者の今日の問題、健康でくらしたいという要求を取り上げた。

③3つ移動分科会は好評。1 企画中止は残念。夜の交流会 (うたごえ等)、短歌、全体会の「前進座」の踊り、オープニングも好評。

④運営に多くの要員が協力。大正大学学生がOA機器設定、会場案内などに参加。

3、大会参加者数について

①2日間で 3,000 名と目標 (現地延べ 3500 人、オンライン延べ 3,000 人) には到達できず。コロナ禍の影響と高齢化による運動の担い手が弱まっている反映。高齢期運動も世代交代が大きな課題、模索が求められる。参加県数は前回大会より前進。

②福島県の会津連絡会は3つ会場を手配延べ 88 人参加、福島全体で 150 人以上がオンライン参加。こうした取り組みは一部に限定。オンライン配信は再検討が必要。

4、大会決算について (中間報告)

①収入 8,416,044 円。参加目標に届かなく、特にオンライン参加者数が大幅に少なく、予算を 440 万円下回った。募金は目標を超過。

②支出 7,853,193 円。大正大学会場費が時間延長加算分を節約。

③差引収支 562,851 円。ひきつづき財政は引き続き厳しい状況。

討議

菅谷正見 東京実行委員会事務局長

ウクライナ、ガザ、大軍拡、社会保障破壊、高齢者の長生きを敵視する思想の拡大など、大変な中での大会だった。一方、人権を何とかしようという動きも目立ってきた。生存権裁判の結果も、そういう大きな文脈の中にある。サブスローガンは日本情勢にあった内容になった。事務局やサポーターに多くの女性が参加した。新しい財産。東京が分担した第 12 分科会は本来の分科会的な姿が実現できた。地域実行委員会は、西多摩は 10 回以上会議、勉強を。武蔵野三鷹実行委員会はどうん作って財政活動、交通費だけで、参加できるようした。11 月 27 日には、西東京が、報告集会を行っている。こういう取り組みができる、もう一度広げたいと思います。参加達成は現在の東京の力、きちんと総括し、今後に繋げる。



三重 寺崎さん

2泊3日のプランを立てて参加。高齢化と諸事情重なって例年40人出せていたのが半分に。3日は家を空けられないとか、高齢の影響、それに尽きる。ただ、新たにに参加してくれた人もいて、広がりのきっかけになった。来年は愛知ですので、しっかり反省をして、取り組む取り組みを強めなきゃならんかなと思っています。



福島 橋本さん

福島は11月10日が、県議員選挙投開票日。全てWebでの対応で取り組んだ。2日で155人。会津は3ヶ所会場設営して88人。柳沢さんの講演に好意的な感想。県事務局は会場設営に5000円出した。会津は、公的施設を借り、人を配置し組織した。参加した人たちが、元気をもらった。すごい勉強になったという積極的な感想、寄せられた。3月5日、須賀川市で第33回の福島県高齢者大会を開催する。記念講演の講師は、鈴木静香先生、300人規模で成功させたい。



群馬 高野さん



第12分科会は11人の方から発言が豊かで大変な became になった。小島さん問題提起に従って討議、時間が経つのを忘れる内容。今回感じたのは、高齢期の方からじゃなくて若い世代から運動を一緒にやろうと言われたこと。情勢が複雑で厳しい中、「諦めない」「油断をしない」が大事と持ちかえった。群馬は高崎地域の高齢期運動連絡会が誕生し今後、県内8ヶ所ぐらい作りたい。地域運動連絡会が誕生、点を面にしたい。

大阪 小寺さん



明日、大阪の高齢者集会、万博カジノ中止でやる。声を大きくしていく。11団体35人。実質42名、オンライン参加何ヶ所で行っている。あと大阪と岡山の宿泊が一緒に交流できて良かった。参加した人は、やっぱり元気をもらって帰ってきている、参加してよかったという人が多い。分科会参加して気がついたが、21年に「高齢者の暮らしと願いに関する調査報告書」を作った。これはなかなか生かされてない。厚労省まで持っていかなあかん、と言われたのもっと活用をしたい。今年は30周年記念誌を10冊持って、普及した。これも宝の持ち腐れにならないように引き続き頑張っていきたい。

徳島 井上さん

東京大会は飛行機で2泊3日、旅費・宿泊費・参加費で9万1000円かかる。今年ほど参加者募集に苦労した年はない。しかも母親大会が山口、日本平和大会が鹿児島でこれは日重なって、三つの大きな大会が11月集中したから、参加者募集で、今年ほど苦労したことはない。そしてコロナ禍の影響と高齢



化によって運動の担い手が弱まっている。それで、高齢期運動を継続させる世代交代が課題、徳島のもそう。今は年金者組合が中心になってがんばっている。大会で元気をもらって帰ってきた。1週間後に年金者組合の総会で高齢者人権宣言の学習会を武市さんを講師に行った。このように始めております、これから頑張っていく。

以上で討議を終えて、議長の提案で第36回日本高齢者大会 in 東京中央実行委員会の解散を確認した。



第37回日本高齢者大会 in 愛知 第1回中央実行委員会総会

吉岡尚志議長の下で、第37回日本高齢者大会 in 愛知第1回中央実行委員会総会が行われた。畑中久明事務局長が議案提案し討議した。

議案提案 畑中久明 事務局長

1、大会開催の意義・目的について

社会保障削減、アメリカ追従の軍備拡大がすすみ、基本的人権が蔑ろに。日本は人権後進国、高齢者に冷たい社会。若者にとっても希望をもてない社会。東京大会のとりくみを学び、愛知大会は「まちから村からの連帯でひとりぼっちの高齢者をなくそう」のスローガンにふさわしい大会とする。以上を基調に大会開催の意義・目的とサブスローガンは愛知実行委員会と協議して決める。

2、大会日程

①2024年11月22日(金) 午後 分科会、学習講座、移動教室 など

②2024年11月23日(土・祝) 午前 全体集会

会場は名古屋国際会議場

3、大会参加目標

1) 参加目標数 2日間で延べ3500人(オンライン参加含む)

2) 大会参加費 現地参加費・1日2500円 オンライン参加費 1日1500円

4、実行委員会体制

中央実行委員会

実行委員長 高橋 淳(日本医療福祉生活協同組合連合会)

事務局長 畑中 久明(日本高連事務局長)

事務局次長 田中 英男(茨城高連) 寺崎 由郎(三重高連) 菅谷 正見(東京高連事務局長) 佐藤 長世(神奈川高連) 全日本年金者組合より後日補強

愛知実行委員会*2月に正式に発足する予定

実行委員長(共同代表・代表) 森谷 光夫(愛知社会保障推進協議会議長・元みなと医療生協理事長)

事務局長 小松 民子 愛知社保協事務局長 元全労連副議長 元日本医労連書記次長)

実行委員会体制は今後補強していく

5、大会開催までのスケジュール

2024年5月に第2回中央実行委員会総会を開き、大会規模・企画・予算を決定する
参加締め切り 第1次 9月末 第2次 10月末)
2024.10 参加者しおり完成・配布・運営・要員体制・全体会プログラム
2024.11 現地実行委員会 当日資料用意・当日運営確認
2024.11.22-23 第37回日本高齢者大会 in 愛知

討議

小松民子 愛知実行委員会事務局長

愛知実行委員会事務局長を予定している小松です。

愛知は高齢者大会をコロナ前は500から600人で行ってきた。コロナの影響で今年は250人と回復はなかなか難しいが、この愛知高齢者大会の構成団体を中心に、さらに多くの団体に加わってもらおう。各団体に呼び掛けて共同代表を募る。女性の力が非常に大事。年金者組合県本部女性部、愛知母親連絡会、新日本婦人の会愛知県分部に申し入れる。自治労連、愛知民医連 愛労連も呼びかける。愛知高齢者大会の実行委員会が事務局を担う。体制、役割、任務分担は、愛知に見合った体制作りを練り上げたい。12月14日に第1回の準備会を開催、2月に第2回目準備会を行い、実行委員会を発足する。



愛知高齢者大会は、2024年は日本高齢者大会に全面的に合流する。

名古屋高裁の判決は、地裁の全くひどい判決に対して素晴らしい判決。今度高裁がみごとに修復してくれたと、全国の皆さんに報告し、一緒に頑張っていきたい。名古屋は「どうする家康」、「ど真ん中まつり」、ジブリパークも充実、誘い合わせてきてほしい。

東京 小嶋さん

高齢者大会は1年間の活動の経験交流が目的の一つ。あんまりやられないので十分に検討にした方がいい。全国的な問題での議論なので中央実行委員会の責任を持っていくことが求められる。第36回大会の第12分科会は、分科会は事前の準備が必要。どんな形でどう声掛けて、発言をまとめていろいろ考えてやった。これは中央団体の協力を得ないと難しい。中央実行委員会、中央団体がいろいろ協力をする必要があるだろう。

第12分科会は高齢化運動をどう発展地域でどう発展させるかという分科会だった。分科会では最後にこの運動を次の大会に皆さん持ち寄ることを確認した。是非、次の大会にこれを引き継いでほしい。

中央 杉澤さん

中央実行委員会に加盟している中央団体の役割をもっと前に押し出していくことが大事だと思います。情勢の認識の違いもあるので中央団体でよく検討したほうがいい。以前はもっと中央団体のかかわりが強かったとおもう。

中央 鐘ヶ江さん

中央団体がそれぞれ専門の運動があるわけです。そういうものをみんな寄せ集め、内容は実行委員会、事務局で議論しても、中央団体が分科会や講座の一つに責任を持って、団体が系統的に問題を追求し問題提起していくように、今後検討していけばよいと思う。



建交労 安藤さん

第8講座は中身が良かったが、もっと広い会場でやってほしいと要望あった。講座の時間も少なく講師の現場で働いてる人の話、質疑応答が目いっぱい。なかなかきつかった。ですから、前半後半で1時間半は議論や質疑応答ができない。もうちょっと広い会場は必要だったという感想。



中央・茨城 田中さん



会場はなかなか難しい。
あと、地方に丸投げという話聞いたことあるが、中央実行委員会に現地実行委員会から参加していただいて調整していけば大丈夫ではないか。

宮城 小畑さん

柳沢さんの講演で、戦争体験の高齢者が少なくなっている、その年代がどうやっていくかってを真剣に論議されなくちゃいけないと受け取った。戦争はやっちゃいけないだと、継承していくために、高齢者大会で議論をする場を、学習会や分科会で継承していく、そういう場を持ってほしい。参加者を増やすための非常に努力された方の経験も、ぜひ全国に知らせてほしい。やってみようかなと、連絡会で話し合えるようにと思う。



閉会あいさつ 田中光顕 日本高齢期運動連絡会 代表委員

皆さんご苦労様でした。日本高齢者大会は人権を軸に、様々な要求を、全国から集めて進めていく取り組み。各都道府県の高齢期運動を高めていくために、続けていきたい。高齢者はこれから増えていく。元気な高齢者も増えていく。次の世代を繋いでいく参加者を増やしていく取り組みをぜひ全国ですすめ、高齢期の運動が高まっていくような大会にしたい。

本日はご苦労さまでした。

